

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070900319		
法人名	株式会社 栄光製作所		
事業所名	グループホーム 虹の家		
所在地	群馬県藤岡市岡之郷1166-1		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのかかわりを大切に、開かれたグループホームを目指しています。温かい家庭的な雰囲気の中、家族との絆を大切に出来るよう家族会を行ったり、日頃から誕生日会やボランティアの慰問、季節の行事等を工夫しながら行っています。家庭に戻れない利用者様が楽しみや生きがいを持って生活して頂けるよう、スタッフ一同協力し盛り上げています。利用者様同士もとても仲良くのんびり過ごされています。ホームページでホームでの様子や行事をいつでも見て頂けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入し、「虹の家新聞」を作り、行事や介護の相談をお知らせ欄に掲載して地域に回覧している。地域の小・中学校の体験学習の受け入れ、地域の祭時に敷地を会場や駐車場として提供、地域の方の緊急時の支援や民生委員の方と連携した独居の高齢者宅の見守り等、地域との交流が行われている。食事は日々の楽しみであり、昼夕食を担当職員が調理し、朝と休日の食事は職員が交替で調理している。利用者の好みを献立に取り入れ、食材業者の食材や地域の方からの差し入れの旬野菜を使い、食欲が増すような味・豊かな色彩に盛り付け・高齢者の嚥下や咀嚼能力に合わせた食べやすい食事の提供で工夫し、利用者・職員は同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。管理者・全職員は利用者が安心して暮らせる支援を第一に考え、地域と関わり、開かれた事業所づくりを目指し取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのかかわりを大切に開かれたグループホームを目指す」という理念のもと、全職員が共有し実践に向け努力している。	開設時からの理念を掲げ、管理者・職員は申し送りや会議で話し合い、理念を共有し日々のケアに取り組みをしている。開設時から職員の交替もしているため、理念見直しの検討を考えている。	日々介護に取り組む職員の思いを確認し、代表者・管理者・全職員で理念の見直しを検討されるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班に加入し、ホーム便りを回覧して活動を見て頂いたり、地域の小・中学生の職場体験学習の受入を行っている。市内のボランティアサークルの慰問の受入れ等、交流の機会を設けている。	自治会に加入し、「虹の家新聞」を回覧版で廻してもらい、事業所の取り組みを知らせたり、地域の道路清掃に職員が参加したりしている。体験学習の小・中学生40名の受け入れ、地域の方からの野菜のお裾分け、大雪を心配した区長の訪問等地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護に関する相談所になれるよう、いつでもどんな相談や問い合わせでも受け付けている。併設の小規模多機能型ホームと連携し、出来る限りの対応を行っている。随時見学も受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型ホームと合同で開催し、利用状況や活動報告等を行い、質疑応答や意見交換を行いサービス向上に活かすように努力している。	2ヶ月毎に、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の運営推進会議を開いている。避難訓練・クリスマス会は全家族に知らせ、会議と同じ日に行っている。利用状況・行事運営・評価結果報告が話し合われ、訪問者の駐車への心くばり及び整備・ウォシュレットの増設の意見があり、サービス向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂くほか、入所者の紹介をして頂いたり、サービスに関しての相談や問い合わせ等に迅速に対応して頂いている。市ホームページに広告を掲載している。	市担当者には地域外の方の事業所利用を相談したり、空きベッドについて地域包括支援センターから紹介されたり等、協力関係を築くよう取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束および精神的拘束は行わない」と理念にもあることを全ての職員が理解しており、実践に努めている。玄関の施錠をしない努力している。	身体拘束をしないケアについて会議で確認をしているが、研修会・勉強会の計画はしていない。職員は、「待っててね」「だめ」等の制止や否定する言葉の拘束に配慮している。外出傾向の方が現在は居ないので、夜間を除き昼間は玄関の施錠はしていない。	身体拘束についての外部研修会及び勉強会が行われ、さらに身体拘束をしないケアの理解を深められるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもとより、利用者を傷つけるような言葉遣いをしないよう、職員は互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方はいないが、必要性がある場合は、制度を活用出来るよう支援していきたい。今後も学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い合意した上で、契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望を尋ねたり、運営推進会議で家族の意見を伺うほか、玄関に意見箱を設置している。介護相談員の気づき等も参考にしている。	毎月の支払いに訪れる方や面会する家族に利用者の暮らしや健康状態を伝え、その折に意見要望を聞いている。また、3~4ヶ月毎の誕生日会では、ボランティアによる演奏会を開き、その折の家族会でも会の開催方法等を聞き活用している。苦情受付相談窓口は玄関に掲示され、意見箱の設置をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に出た意見や改善案を管理者から代表者に伝えた上で今後に役立っている。	毎月の職員会議や申し送り時に、話し合いをしている。ケアの対応や状況の変化による勤務時間の変更・備品購入等の提案を聞いて、勤務時間帯による人数調整・職員指導法に活用をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせた勤務調整も行い、各々が活躍できる分野での業務の割り当て等、職員が生き生きと働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参考になる資料があれば配布や回覧してレベルアップを図っている。外部研修の機会を設けるのはなかなか難しいが、積極的に研修を受講していく予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、情報収集や交流に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に見学して頂き、面談する機会を設け、出来るだけ本人の意見を聞き取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しつつ家族からの話を良く聞き、情報収集を行い、利用者や家族の思いを汲み取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を第一に考えて対応している。本人の状態と家族の事情を考慮し、最善策が取れるような支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人を人生の大先輩として尊重し、マイペースに過ごしながらも、共同生活をしながら助け合い協力し合って穏やかに過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の中での本人の存在価値を十分に知り、家族とホームが一体となって本人を支えかかわっている。常に状況を伝え、対応について確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受入れており、外出・外泊も自由にして頂き、関係が途切れないように配慮している。家族のほかにも友人や兄弟など様々な方の面会がある。	面会はいつでもと家族に伝えており、外食や外泊・祝事・墓参等に、家族が迎えにきて出掛けている。その他、昔のサークルの友人・従兄弟・家族が面会に見えており、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人や気の合う人同士が交流しやすいよう席順を設置したり、外出や共同作業を通じて仲間意識が持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方の都合に配慮しつつ、退所先を訪問してその後の様子を伺う等、出来る限りの対応にて取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や思いを聞き、生活の様子や言葉の中から把握に努めるほか、家族とのコミュニケーションも大切にしている。	日々の関わりのなかで利用者に言葉をかけ、思いを聞き、笑顔で暮らせるよう支援に努めている。本人のしぐさや表情から思いを把握し、意思表示の困難な方が歌を歌うと笑顔になるなど、その人の特徴を把握している。また、家族からの情報を得て、職員間で検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供票は常に確認し把握している。不明な点は、他機関や家族に確認するなどして情報収集している。日頃から気づいたことは、こまめに記録し、生活歴等の情報の掘り起こしを続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録に記録し、日々の申し送りや職員会議にて全職員で共有している。定期的カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した本人本位の介護計画になるよう、アセスメントの段階から本人を中心に据え、家族の意見も反映しながら計画を作成している。定期的カンファレンスを行い再検討したり、毎月家族にモニタリングし、その内容に沿った介護計画を作成している。	本人・家族の希望・要望に添って、毎月のカンファレンスで話し合っている。長期6ヶ月・短期3ヶ月の介護目標を立案し、毎月のモニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。定期的3ヶ月毎の見直しをするが、細かい変化での具体的援助内容は、ケア記録や申し送りノート等の記載で共有し、随時見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに、申し送り等で情報を共有し、実践の結果や気づきをサービスに活かしている。さらに支援経過として担当者会議で検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	満床時の緊急性のある問い合わせには、併設の小規模多機能型ホームのショートステイ利用を提案している。特養希望の待機者も受け入れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署に協力頂き、防災訓練や救命講習を行ったり、小・中学生の職場体験学習の受入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望によりかかりつけ医を決定し、定期的な往診や受診で適切な医療を受けられるよう支援している。急な状態の変化にも、協力医に24時間対応にて協力頂いている。家族にも随時相談している。	契約時に事業所の協力医について説明し、本人・家族の希望するかかりつけ医の受診支援をしている。受診時は家族が同行しているが、都合で職員が同行することもあり、受診結果は申し送りノートで共有している。協力医は2週間毎の往診があり、受診状況は家族に報告している。緊急時は複数の病院と連携体制もあり、適切な医療を受けられるように支援している。歯科医の訪問診療もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員の訪問が週に1度ある、相談したりアドバイスを頂いている。看護師の資格を持つ職員も勤務している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の経過をみて何度も足を運んだり、家族や医療機関と密に連絡を取り情報を頂きながら、早期退院に向けた関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、医師やケアマネと相談しながら、家族に状態を報告し把握して頂き、随時話し合いチームで支援している。	事業所のでき得る最大の介護を伝え、医療的処置が必要になると主治医・本人・家族と話し合い、方針を共有している。退院後に事業所に戻る方もおり、本人・家族の望む支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、併設施設と合同で救命講習会を開き、地域の方と一緒に職員も受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め、年2回、地域の方にも参加して頂き、避難訓練を行っている。緊急時には、地域の方にも協力頂けるよう緊急連絡網に加わって頂いている。年1回は消防署の方と消火器の使い方の確認をしている。	年2回のうち1回は消防署が立会い、夜間想定避難訓練を併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。地域には、事業所の新聞「虹の家」に避難訓練の呼びかけを掲載して回覧で廻し、運営推進会議のメンバー区長・敬老会長・民生委員・家族代表の参加で行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に配慮したコミュニケーションを行っている。ホーム便りやホームページの掲載に関しては、契約時に家族に承諾を頂いている。	一人ひとりの利用者を尊重し、基本的には〇〇さんと呼称している。賞賛することでその方の尊厳を保持したり、排泄誘導時には小声で声をかけ気づかれないよう対応したり等、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のレベルに合わせて対応し、思いや希望を理解し受け止められるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の状態に合わせた過ごし方が出来るように支援している。レクも無理強いしないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを重視した身だしなみやオシャレが出来るよう支援している。訪問理容サービスを利用されたり、入浴時には爪や耳を清潔にしたり、化粧水やクリームを塗布して顔や手の乾燥を防いだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューを取り入れて献立を考えている。食材の下準備やテーブル拭きなども一緒に行うようにしている。嗜好品も用意したりしている。	調理担当職員が昼夜の食事を作り、職員が朝食・休日を交替で調理している。職員は利用者の希望を聞いて献立を考え、食材購入に利用者も一緒に出掛ける時がある。昼食は業者メニューにより配達され、地域の方から頂く野菜も食卓に上がる。彩りよく盛り付け、咀嚼や嚥下能力に合わせ粥食・刻み食を提供し、職員と利用者が一緒に食事をしている。また、テーブル拭きや食器拭きをされる方もおり、おやつ作りも一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を記録し管理している。水分摂取の拒否がある方には、こまめに摂取して頂いたり飲み物の工夫などしている。栄養状態により、栄養補助食品も医師との相談の上、取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各自の状態に応じ、歯磨きにて清潔にし、口腔内のチェックを必ず行っている。夜間は義歯を外して管理し、入歯洗浄剤で定期的に消毒している。訪問歯科診療も必要に応じて受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録して排泄パターンを把握し、時間を見て声かけや誘導することで排泄の失敗を未然に防ぐよう支援している。排泄用品も状態の変化に応じて使い分けている。	排泄チェック表より排泄パターンや排泄のサインを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間帯も声かけやパット使用等で工夫し、トイレでの排泄を支援し、パットの使用量減少に取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から食事の内容の工夫や運動量を増やす働きかけ、腹部マッサージの施行などで排便習慣をつけるよう支援している。排便状況をチェックし、慢性の便秘の場合には、医師と相談の上便秘薬も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全にゆっくりと入浴して頂くため、入浴日には職員を多く配置して対応している。入浴の順番は希望を優先させ、菖蒲湯やゆず湯など季節の薬湯のほか、入浴剤で温泉気分を楽しんで頂くなど工夫している。	月水金週3回の入浴を支援し、利用者の希望やその日の気分に合わせて入浴の順番に配慮している。立位困難の方であっても、ゆっくり湯船に浸かれるよう2名の職員が介助している。季節のゆずや入浴剤を使用し、季節感や温泉気分を味わい、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて居室や共有スペースで午睡したり、日中に日光浴や運動を促すことで夜間良眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬のファイルを用意して処方された薬が一覧できるよう管理している。毎食つつ小分けにして準備している。薬の追加や変更があった場合には必ず申し送り、症状に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下準備や洗濯物たたみ、テーブル拭きなど家事への参加をしたり、園芸、映画鑑賞、紙芝居、読み聞かせなどの各自の保持能力を活かしつつ、生活を楽しめるよう環境整備に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出を支援するほか、天気の良い日には庭で日光浴をしたり、ドライブや外食など出かける機会を増やし、外部での楽しさを感じて頂いている。	天気の良い日には、近隣の散歩・庭でのティータイムや外気浴をしている。敷地内に菜園があり、野菜の生育や収穫を楽しみに戸外に出られるよう工夫をしている。家族の協力を得て、外食や孫の結婚式・墓参りに出かけている。季節の花見・初詣・林檎やみかん狩り・サーカス観賞など、日頃出かけられない場所に出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談の上、お小遣いとして一定額をお預かりし、ホームで管理している。本人が所持し管理することは難しいので、本人と家族の希望に応じて利用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人の都合も考慮しながら、必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた空間の飾りつけを職員と一緒に、居心地よく楽しく暮らせるよう工夫している。	ホール兼食堂は吹き抜けの天井になっており、圧迫感がなく、高い窓から光が差し込み明るい。壁には行事写真、テーブルには季節の花が活けられ、桃の節句の雛飾りがされている。台所からはご飯の炊ける匂いが漂い、季節感や生活感を感じられるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々にお気に入りの場所があり、居心地よくマイペースに過ごされている。気の合う同士と一緒に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や大切な人の写真、鉢植えなどそれぞれ大事にしている物を活かして、居心地よい空間になっている。自分で塗った絵なども掲示し、自分だけの部屋という意識を持って安心して過ごされている。	居室には、自宅同様に使い慣れたテレビ・テーブル・椅子等の家具類が持ち込まれ、家族・本人の写真、カレンダーが掛けられ、一人ひとりの生活スタイルに合わせ居心地よく良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行しやすいように段差のないバリアフリーで、共用スペースには手すりが設置されている。歩行器を利用し自立して移動できるよう、ホールや居室の家具の配置をしている。併設の小規模多機能型ホームへ自由に出入りが出来る。		